

こんなときどうする!?
認知症の人のBPSDへの対応

認知症の人のBPSDへの対応

学習のねらい

今回の研修では、認知症の人のBPSDへの対応について学びます。

実際の入所者の症状と照らし合わせながら考えると、より理解しやすいと思います。

個人学習、グループワークなどを交えながら、施設内で活用してください。

認知症の人のBPSDへの対応 クイズ①

Q: 認知症の人のBPSDへの考え方と対応について、次の項目のうち、正しいものには○、間違ってるものには×をつけなさい。

- ① BPSDは、薬物療法によってのみ改善可能である。
- ② 原因疾患ごとに対応マニュアルを作成し、統一した対応に心掛ける。
- ③ BPSDは本人が発している何らかのサインだと考えることが大切である。
- ④ BPSDは単独で出現することが多く、同時に複数のBPSDが出現することはない。

認知症の人のBPSDへの対応 クイズ① 解答

Q: 認知症の人のBPSDへの考え方と対応について、次の項目のうち、正しいものには○、間違ってるものには×をつけなさい。

- ①× 薬物療法だけでなく、介護者のかかわり方や環境調整などにより改善することが可能である。
- ②× 対応を統一するのは不適切。個々の状態に合わせた個別ケアに心掛ける。
- ③○
- ④× 複数のBPSDが同時に出現することも多いので、対応が難しい。

認知症の人のBPSDへの対応 クイズ① 解説

- ・認知症の人のBPSDは、**原因疾患、認知機能障害（中核症状）、生活歴、身体疾患、体調、環境**などがそれぞれに複雑に影響し合って発生するため、**症状も程度も多岐にわたる。**

認知症の人のBPSDへの対応 クイズ① 解説②

- ・認知症の人のBPSDには何らかのメッセージが隠されていることが多い。介護者は様々な情報からその“声なき声”を聴き、その人が何を望んでいるのかを見極めて、適切なケアを提供しなければならない。

認知症の人のBPSDへの対応 ワーク①

認知症の人のBPSDにはどのようなものがあるのか具体的にできるだけたくさん書き出してみよう。

認知症の人のBPSDへの対応 ワーク① 解説

・認知症の人のBPSDには、さまざまな種類があり、原因疾患ごとに出現しやすいBPSDが異なる。

例)徘徊、暴言・暴力行為、不安・抑うつ、介護拒否、もの盗られ妄想、幻覚、異食、弄便、睡眠障害、せん妄、アパシー など

※近年、自治体を中心に、「徘徊」という言葉を、「認知症の人にとってマイナスイメージにつながる」として使わない動きが広まりつつありますが、本講座では、現場で広く使われている言葉として、わかりやすさを優先してあえて「徘徊」と表現しています

認知症の人とのBPSDへの対応 クイズ②

Q: 認知症の人のBPSDについて、次の項目のうち、正しいものには○、間違ってるものには×をつけなさい。

- ①徘徊は、転倒のリスクが高く、離設につながることも多いため、直ちにやめさせる必要がある。
- ②暴力行為が始まった時には、一旦距離を置いて危険がないか見守るのも手である。
- ③もの盗られ妄想は、身近な人物よりも遠い親戚やかかわりが薄い介護職員などが疑われる対象となることが多い。
- ④食欲をつかさどる満腹中枢が障害された結果、自分の限界を超えて食物を食べ続けることを異食という。
- ⑤アパシーとは、気分の高揚により気持ちが高ぶり、過活動状態になることをいう。

認知症の人とのBPSDへの対応 クイズ② 解答

- ①× 危険がない限りは見守るだけでもよい。無理に止めさせるのは逆効果になる。
- ②○
- ③× 配偶者やいつも担当している介護職員など、かかわりが強い人物が疑われる対象となることが多い。
- ④× 食べ物でない物を食べてしまうことを異食という。
- ⑤× アパシーとは無気力状態のことをいう。

認知症の人とのBPSDへの対応 クイズ② 解説(徘徊)

・理由がなくうろうろするわけではなく、不安や焦りなど、本人にとっては徘徊する何らかの理由が存在するため、無理に止めるのはよくない。

- 例)・自分の部屋に知らない誰かがいるという幻覚。
・家に帰って夫のために食事の準備をしなければならない。
・子供を保育園まで迎えに行かなければならない。 など

認知症の人とのBPSDへの対応 クイズ② 解説(徘徊)

施設内で徘徊する場合

- ・転倒の危険性があるため、**少し離れたところから見守る**。疲れたところを見計らって声をかけるとうまくいく場合もある。途中で休憩できるように、**椅子やベンチを用意しておく**ことで、声をかけるきっかけになる。

認知症の人とのBPSDへの対応 クイズ② 解説(徘徊)

施設の外に出ってしまう場合

- ・行方不明になる危険性が高いため、**少し離れたところから見守る**。疲れたところを見計らって声をかけるとうまくいく場合もある。

認知症の人とのBPSDへの対応 クイズ② 解説(暴力)

- ・理由は人それぞれだが、不安を感じたときや自尊心が傷つけられたときに暴力行為に繋がってしまうことが多い。

認知症の人とのBPSDへの対応 クイズ② 解説(暴力)

・居室の騒音や照明の明るさ、食堂の椅子の位置、仲の悪い入所者とのかかわりなど、人間関係も含めた周りの環境が暴力を引き起こす原因となっていることも多い。

認知症の人とのBPSDへの対応 クイズ② 解説(暴力)

- ・**体調不良**が原因であることも多いので、**暴力行為**が一旦収まったら**健康チェック**を行う。

認知症の人とのBPSDへの対応 クイズ② 解説(もの盗られ妄想)

- ・日ごろから接する機会が多い身近な家族や担当の介護スタッフが標的にされてしまうことが多い。

認知症の人とのBPSDへの対応 クイズ② 解説(もの盗られ妄想)

- ・「大変ですね」など共感的な声かけをしながら身の回りを一緒に探すのもよい対応といえる。
- ・もし先に見つけた場合は、さりげなく本人が見つけるように誘導するとその後「隠してたんでしょ」と疑われることもない。

認知症の人とのBPSDへの対応 クイズ② 解説(異食)

- ・洗剤、電池、タバコ、ビニールなど、
飲み込むと命の危険があるものを手が届く
場所に置かない。

認知症の人とのBPSDへの対応 クイズ② 解説(異食)

・飲み込んだものによっては、すぐに吐き出させないといけないもの、水を飲ませたほうが良いもの、牛乳を飲ませたほうが良いものなど**いろいろな対応方法がある**ので、施設内にある救急マニュアルの内容をチェックしておく。

認知症の人とのBPSDへの対応 クイズ② 解説(異食)

- ・飲み込んだものが喉に詰まり、窒息してしまう場合もあるので、異物除去のための背部叩打法やハイムリック法などを日頃から練習しておくといよい。

認知症の人とのBPSDへの対応 クイズ② 解説(アパシー)

・アパシーとうつの違い

アパシー	うつ
何事にも興味を示さない フラットな状態	気分が常に沈みがちになる
自覚症状がない	うつだという自覚がある
自傷行為に走る可能性は 極めて低い	重度の場合、自傷行為に 走る場合もある
治療に有効な薬物がない	抗うつ剤が有効

認知症の人とのBPSDへの対応 クイズ② 解説(アパシー)

- ・受容的な態度でかかわり続けることが大切だが、時には一人の時間を大切にさせたほうが功を奏することもある。